

FPU Press Release

福井県立大学からのお知らせ

令和8年4月16日

報道機関各位

問合せ先

地域政策学部 漆間アンドレア

Tel 0776-61-6000

E-mail afurush@g.fpu.ac.jp

フランスの作家・哲学者ガルシア氏を迎えたイベントを開催します

福井県立大学は、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本と協力し、フランスの作家・哲学者トリストラン・ガルシア氏を迎えて、「若者たちの声と〈私たち〉の哲学」をテーマとする公開イベントを開催します。本学の学生と若狭に暮らす高校生が、自らの世代や日常の変化、「私たち」と感じる瞬間について短いトークを行い、その後のディスカッションにも参加します。ガルシア氏の講演や、フランスのポップアーティスト La Féline による音楽パフォーマンスとあわせて、多世代・多角的に〈私たち〉の意味を問い直す時間を創り出します。

つきましては、下記のとおりイベントを開催いたしますので、当日の取材等にご配慮いただきますようお願いいたします。

記

- 日時 令和8年4月23日（木） 19:00～20:30
- 場所 若州一滴文庫（福井県大飯郡おおい町岡田 33-2-1）
- 参加者 一般来場者
- 内容
 - 開会挨拶およびイベント趣旨説明
 - 福井県立大学学生と若狭高校・舞鶴高校等の高校生によるトークとディスカッション参加
 - トリストラン・ガルシア氏講演および La Féline による音楽パフォーマンス
- 取材について
当日の取材をご希望の方、資料・写真等をご入用の方は、お手数ですが上記担当者にご連絡ください。



福井県立大学
Fukui Prefectural University

La nuit des idées

思想の夕べ

Jeudi
4/23 木
19:00-20:30



Jakushu Itteki Bunko (Ōi, Fukui)
若州一滴文庫 (福井県おおい町)

PHILOSOPHIE
哲学

BILINGUE
日本語 & フランス語

POP FRANÇAISE
フレンチ・ポップス

参加無料
要申込



Tristan Garcia

哲学者・小説家
(トリストラン・ガルシア)



La Féline

哲学者・音楽家
(アニェス・ゲロー)

若者たちの声と哲学者の考察で、「私たち」をめぐる多世代の視点を体験する夕べ。学生が、自分たちの世代や日常の変化、「私たち」と感じる瞬間を語るトークに続き、**日仏の視点を交え、作家・哲学者トリストラン・ガルシア**が、人生の各段階や世代を通して「私たち」の意味を探ります。最後は、**ポップアーティスト La Féline** の歌声とギターで音楽パフォーマンスを楽しめます。

プログラム

18:30

開場

19:00-19:20

開会の挨拶、イベント紹介
学生によるトーク

19:20-19:50

作家・哲学者トリストラン・ガルシア
による講演

19:50-20:00

来場者との質疑応答

20:00-20:30

フランスのポップアーティスト
La Féline がギターと歌で出演

Inscription
お申し込み



主催
在日フランス大使館/
アンスティチュ・フランセ

共催
若州一滴文庫

協力
福井県立大学



福井県立大学
Fukui Prefectural University



思想の夕べ 2026
La nuit des idées

「思想の夕べ2026」

～文化を地域活性化の手がかりに～



写真：「思想の夕べ2025」

「思想の夕べ2026」とは

イベント概要

「思想の夕べ」は国際的に展開されている文化・討論イベントです。2026年は「Ouvrir la voie (道をひらく)」をテーマに、新たな声や創造性、社会の分断が進む時代における対話の可能性に焦点を当てます。

本討論会シリーズでは、日本各地の地方・郊外地域を舞台に、文化や知の実践を通じて地域に新たな活力を生み出している取り組みを紹介・共有していきます。若者を含む地域の担い手、芸術家、研究者などを迎え、文化・地域・共同体の関係をどのように再構築できるのかを、ともに考える場を巡回形式で設けます。

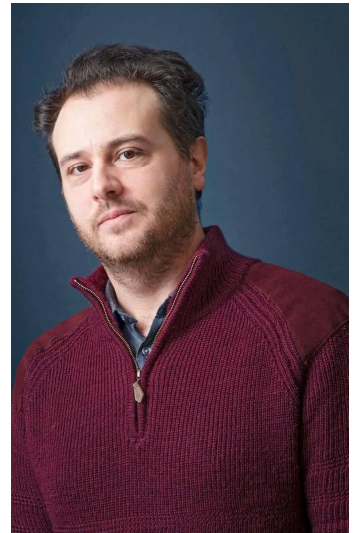
各地では、地域の特性に即したテーマを設定し、織維と絹の創造（富岡）、音楽（福岡）、美食文化（福井）、アートやイラスト（東京）など、多様な分野から議論を展開する予定です。

目的

本企画は、文化に携わる方々や、日仏で新たな実践を行っている人々の声を共有し、現場に根ざした議論を通じて、参加型で持続可能な文化的・社会的選択肢の可能性を示すことを目的としています。

トリスタン・ガルシア

Tristan Garcia



翻訳新刊書



『7』

高橋啓訳、河出書房新社、2025年8月

全7編の短編小説。

一見、全く異なった6つの作品が最後の7つ目の物語の中で繋がり、死・生・愛についての壮大な小説となっている。リーヴル・アンテル賞2016年受賞。



『〈私たち〉とは何か 一人称複数の哲学』

関大聡・伊藤琢麻・福島亮訳、法政大学出版局、2025年9月

私たちが〈私たち〉と口にするとき、そこには〈私たち〉と〈それ以外〉を峻別する境界線が引かれる。人びとを団結させ、同時に分断するこの人称代名詞の政治性を、本書は深く深く掘り下げていく。

1981年、フランス生まれの哲学者、小説家。高等師範学校およびソルボンヌ大学で哲学を学び、ピカルディ大学で博士号を取得。現在、パリ国立高等美術学校教授。小説La Meilleure Part des hommes (Éditions Gallimard, 2008) でフロール賞受賞、小説Mémoires de la jungle (Éditions Gallimard, 2010) でポンティヴィ歴史小説ピエンナーレ賞受賞。

日本語訳に『激しい生—近代の強迫観念』（栗脇永翔訳、人文書院、2021年）、『7』（高橋啓訳、河出書房新社、2025年）、『〈私たち〉とは何か—一人称複数の哲学』（関大聡・伊藤琢麻・福島亮訳、法政大学出版局、2025年）がある。



小説家・哲学者

来日期間（予定） 2026年4月16日～26日

トリスタン・ガルシアは在日フランス大使館/アンステイチュ・フランセの討論会シリーズ「思想の夕べ2026」の一環として招聘されています。

